



サトリの ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗蓮乗寺住職
早川要清さん

第83回

日蓮宗では海外における学校建設などの国際協力活動を行っています。私が日蓮宗宗務院の伝道部に配属された1998年には、ラオスの小学校建設の支援を呼びかけていました。翌年がちょうど10校目の寄贈となり、贈呈式にあわせて訪問使節団が結成されることに。私は事務局として参加し、初めてラオスを訪れました。

青い空と赤い土。都市部でも道

はガタガタで土ぼこりまみれ。小学校に着くと、村の人たちから温かく迎えられました。そんな経験からラオスという国に興味を持ち、



上/ナヒン村小学校の子どもたちとの記念撮影。後列中央が早川さん。
右/現在建設中の高校3クラス分の教室。今年の支援金で壁が作られる予定。



ラオスのことや国際協力活動のことをもつと知りたいと思うように。その後、日本国内のラオス関係のNPOやNGOと交流を持ち、国際協力について学びました。

単なる寄付では終わらない！ 村民と一緒に幼稚園を建設

2006年にはナヒン村に小学校を建て、先生方や子どもたちと仲よくなりました。翌年遊びに行ってみると、校長先生に「久しぶりだな、待ってたよ」と言われたんです。私は1年前に1度訪れ、10日ほどしか滞在していない。それなのに「来ると思ってたよ」なんて言われたら、嘘でもうれいものです。それに感激して、その後も近隣の村の小学校に図書室を作る支援をしながら、ナヒン村に通うようになりました。

あるとき、校長先生から「幼稚園が欲しい」と言われました。私はNPOでもNGOでもないから「そんなお金は持っていないよ」と断りました。でも翌年も「幼稚園が

欲しいんだよね」と。全額の支援は無理なので、私のお金で足りない分は村の人が負担し、一緒に幼稚園を作ろう……こうしてプロジェクトがスタートしました。

信頼関係があるからこそ 長く続けられる支援活動に

私の20万円の支援でできたのは2、3間ほどの建物。屋根はあるけれど天井はなく、廊下も微妙に足りないない(笑)。でも私のお金でできるのはこれだけでした。

2011年以降は幼稚園を2つ作り、図書室も作り直しました。すると今度は「この村に中学・高校を作ります」と先生方。「お金はどうするの？」とて(笑)。でも先生方は「いい教育環境を作りたい」と丸となってプロジェクトを提案するんです。その熱意に押されて、私は後方支援をしています。

国境を越えた信頼関係こそが私の活動の原動力。今の時代、簡単に結べるものではない、絆がそこにはあります。



上/蓮乗寺は幕末の松代藩士・佐久間象山の菩提寺。

下/長野市松代町は真田家ゆかりの地。蓮乗寺本堂にも家紋の六文銭が。



教育支援活動を通して 国境を越えた絆を結ぶ

はやかわようせい 1970年生まれ、大阪府出身。身延山短期大学を卒業後、立正大学仏教学部に編入。卒業後はゲームソフトやWEBコンテンツなどの音楽制作に携わる。1998年より日蓮宗宗務院伝道部に勤務。2006年に退職し、長野市蓮乗寺の住職に。ラオスへの教育支援活動を行い、現在は中学・高校建設をサポート中。日蓮宗国際布教対策委員、長野刑務所教諭師。